

日時 昭和二年五月八日—十一日 四日間  
場所 大阪市天王寺公會堂  
出席代議 一七九名  
議長 野田律太  
傍聽者 連日約二百名内外

第一日

午前十一時開會。中央委員長野田律太開會の辞として大要左記の如き演説をなす。  
「第三回大会を開くに當り比類なき光栄と愉快を感ずる。評議會の歴史は勿論甚しく過  
去二十年に於ける我々の活動は我々労働運動界に多大の躍進の進歩を招来したことも  
自信する。今日の我々労働運動界の発展は實に我々が血と涙とを流して戦ひ取つたのである。  
無産政党の組織にしては官憲の壓迫と右翼の迫害とに苦しめられたるも兎も角労働衆  
民党がそのを創出し、今も同党に積極的の活動し我々無産階級の政治的要求を貫徹する  
ことに尽すべしとある。  
實際的運動に於ては實際労働會議の正確暴露に努め、更に太平洋労働會議の支持或は新文非  
干渉運動に力を致し、又国内的運動に於ては悪法反対、議會解散請願運動等も始め大小無数  
の労働争議を敢行し労働問題の一般化に努むると同時に對する右翼團體の偽善的正体も暴露し  
た。  
組織運動に於ては不景氣に拘げられず相當の實踐を奉行し又我々に対する逆宣傳即ち共產黨  
云々、左翼小兒病云々の非難にもよく堪え大衆の理解を得るに至つた。——中略——  
今も資本主義は没落過程に在り之れに合流してある日本の資本主義は所謂最後の安んじ